



▶ 旅客案内ディスプレイの設置

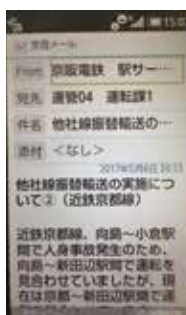
ダイヤ乱れなどの異常時におけるお客さまへの情報提供の充実を図るため、平成29年3月31日現在、京阪線40駅に「旅客案内ディスプレイ」を設置しています(平成29年度中に京阪線全駅に設置予定)。また、平成29年2月からは、京阪電車Webサイトにも連動させ情報発信を行っています。平常時は沿線観光案内やマナー啓発などに活用し、案内サービスの充実を図っています。

Webサイトでの延着証明書の閲覧・印刷

列車の遅延が5分以上発生した際には、各駅で発行する延着証明書に加え、Webサイトでも延着証明書を閲覧・印刷可能にすることで、お客さまの利便性向上を図っています。

業務用携帯電話の携行(乗務員)

乗務員(車掌およびワンマン列車担当運転士)が主に運行状況を確認するために携帯電話を携行しています。当社線や当社線と接続する他社線で遅延や運休といった輸送障害などが発生した場合に、列車無線による連絡に加えて、最新の状況を乗務員に随時メールで配信することで、お客さまへの情報提供体制の強化を図っています。



運行状況確認用携帯電話(画面)

AEDの設置

お客さまの救命率向上のため、主要駅にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。

また、駅係員が研修会などで心肺蘇生術を体験したり、新入社員を中心に普通救命講習を受講しています。



車いすスペースと優先座席

バリアフリー化の取り組み

▶ 車両のバリアフリー

車内に車いすスペースを順次設置しており、平成29年3月31日現在466両となっています。また、非常時に乗務員と直接通話ができる非常通報器を442両に、出入口上部に列車種別や行先、停車駅、次駅で開くドアの方向案内などを表示する車内案内表示器を412両に設置しています。平成26年より新たに導入した13000系車両とリニューアル工事を実施した6000系車両の合計75両には、目の不自由なお客さまのために、乗降口扉の開閉を音でご案内するドアチャイムを新たに設置しています。

身体の不自由な方などのために設置している優先座席は、座席の枕カバーや座席背もたれ、カーテンやステッカーなどで表示や色分けすることによりそのゾーンを明確にしています。

▶ 駅のバリアフリー

国および地方自治体と協力し、エレベーターをはじめとしたバリアフリー設備を順次整備しています。平成29年4月1日現在、一日の平均的な乗降人員3,000人以上の64駅のうち、59駅のバリアフリー化(段差解消)が完了しています。

「オープン型宅配ロッカー」の設置

京阪線では、平成28年度より駅構内への「オープン型宅配ロッカー」の設置を進めており、樟葉駅など4駅に設置を完了しています。ヤマト運輸(株)の宅急便の受取場所として指定できるもので、駅構内で荷物の受け取りが可能になりました。今後はヤマト運輸(株)以外の宅配便にも対応するとともに設置駅を増やしていきます。

また、(株)京阪ザ・ストアが展開するコンビニエンスストア「アンスリー」では、宅急便の発送受付および店頭受取りサービスを実施しています(一部店舗除く)。

ご自宅に不在がちで荷物が受け取れない、単身・共働き世帯などの方々にも暮らしやすい沿線づくりを推進しています。

